2022年度　講義要綱

科　目	コミュニケーションⅠ	必修　2単位 講義	講　師	松森 照幸
授業概要	クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)			
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・絵本を活用した表現活動について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術②」井上まどか			
到達目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。			
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1　オリエンテーション			
	2　グループコミュニケーション(1)			
	3　学校生活とクラス活動（入学から卒業まで）			
	4　就職とコミュニケーション(1)			
	5　グループコミュニケーション(2)			
	6　産学連携			
	7　自己分析(1)			
	8　自己分析(2)			
	9　グループコミュニケーション(3)			
	10　グループコミュニケーション(4)			
	11　グループコミュニケーション(5)			
	12　産学連携			
	14　グループコミュニケーション(7)			
	15　振り返り・夏季休暇・後期の学校生活に向けて			
	17　【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子			
	18　コミュニケーションプログラム(1)鑓水			
	19　グループコミュニケーション(1)			
	20　就職とコミュニケーション(1)			
	21　産学連携			
	22　【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:井上まどか			
	23　【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優			
	24　【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅江			
	25　就職とコミュニケーション(2)			
	26　コミュニケーションプログラム(2)鑓水			
	27　産学連携			
	28　【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか			
	29　【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美			
	30　振り返り・進級に向けて			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
成績評価の方法と基準	出席状況(30%)　授業態度(30%)　提出物(20%)　発表(20%)			
担当教員の専門分野等	松森照幸:実務経験のある教員[] 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○鈴木八重子:講座責任者　○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者　○飯田有美:書店における絵本の売り場つくり 及び 絵本の出版流通に精通した者　○武田優:図書館司書業務と 地域の読書推進活動にお			

2022年度　講義要綱

科　目	体育講義	必修　1単位 講義	講　師	菊池 一英
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育（幼児体育）がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。			
授業目標	1．健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2．具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。			
到達目標	1．実際の保育現場を想定して、指導内容からカリキュラム編成ができる。 2．幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、実技種目で身体を動かすことができる。			
授業方法	講義形式、グループワークトーキング（GW）、DVD視聴、実技体験			
授業計画	1　オリエンテーションと領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？			
	2　幼児体育の意義と社会的背景とは？			
	3　運動遊具を使う遊び（マット）※実技			
	4　運動遊具を使う遊び（巧技台）※実技			
	5　健康観の変遷			
	6　産学連携			
	7　リズムダンス遊び※実技			
	8　体育、幼児体育の歴史的変遷			
	9　体育遊びへの導入と展開（鬼遊び）※実技野外指導			
	10　幼児期の身体発達と運動能力の特徴			
	11　幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？			
	12　産学連携			
	13　保育現場での体育的活動の実際ー自由と設定保育ー＜DVD視聴＞			
	14　健康とは何かを問い直す＜DVD視聴＞			
	15　発育・発達・成長とは何かを問い直す＜DVD視聴＞			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト　菊池一英著			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み姿勢・GW討論への貢献度（30%）、レポート提出（30%） 出席率（40%）			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			

2022年度　講義要綱

科　目	保育原理	必修　2単位 講義	講　師	大河 芙美
授業概要	・事例を通して保育の知識や目的などを学習する。 ・子どもの姿を知り、子どもに寄り添う保育を考える。 ・グループ学習やゲームを通して、保育者にとって大切なコミュニケーション力を養う。			
授業目標	・保育の考え方、自己分析力、観察力を養い、自ら行動する積極性を身に付ける。 ・チームワーク、連携を大切にし、安定した人間関係が構築できるようになる。			
到達目標	・保育士として使用、守るべき法令、規則が何でどこを確認すればよいか分かる様になる。 ・積極的に授業に参加し、コミュニケーションをとりながら自分が大切にしたい保育を探ることができる。			
授業方法	コミュニケーションスキルを身に付けるためにグループワーク、ディスカッションゲーム、課題解決学習など、様々な学習形態を経験していく。			
授業計画	1　ガイダンス～授業の進め方、保育とは何か　保育の目的と意義～			
	2　保育の思想と歴史の理解			
	3　保育に関する法令、制度について			
	4　子どもの最善の利益とは			
	5　子ども・子育て支援新制度			
	6　産学連携			
	7　保育所保育指針とは			
	8　子どもの理解に基づく保育の過程			
	9　保育者の役割と責務			
	10　保育内容について			
	11　子どもを理解する～事例検討～			
	12　産学連携			
	13　子どもを理解する～事例検討～			
	14　保護者支援・対応の在り方			
	15　保育の現状と課題　まとめ			
必須テキスト	『保育所保育指針解説』平成30年3月、厚生労働省			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布いたします。			
成績評価の方法と基準	出席率、授業態度（積極性、コミュニケーション力など）提出課題、テストなどの総合評価			
担当教員の専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営のエキスパートとして保育園監査、園長指導、運営指導に携わる。			

2022年度　講義要綱

科　目	教育原理	必修　2単位 講義	講　師	末岡 尚文
授業概要	人間が社会で生きていくために必要となる能力や資質を発達させる「教育」という営みについて、歴史や思想、制度、社会との関わりなどに焦点を当てながら幅広く学び、受講者各々が自分なりの「教育」観を構築することを目指します。			
授業目標	1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する			
到達目標	1. 教育に関する基礎的な知識を身に着け、自己の(被)「教育」経験を相対化する。 2. 自らの目指す「教育」像やその課題、可能性について、理論や実践に基づいて、他者にわかりやすく説明できる。			
授業方法	講義形式での授業を基本としつつ、適宜視聴覚教材を用います。リアクションペーパーへの記述や、グループワーク等を通じた参加者同士の意見の交換を重視します。			
授業計画	1　イントロダクション			
	2　教育の基礎 (1):「子ども」とは誰か？			
	3　教育の基礎 (2):なぜ学校で「学ぶ」のか 「発達」とは？			
	4　教育の基礎 (3):なぜ学校で「学ぶ」のか 「遊び」と「学び」			
	5　教育の基礎 (4):学校を支える制度と組織			
	6　産学連携(授業なし・課題有り)			
	7　教育の歴史と思想(1):近代学校の成立と展開			
	8　教育の歴史と思想(2):戦後日本における子どもと学校・社会			
	9　教育の歴史と思想(3):「分ける」教育と「共に学ぶ」教育			
	10　教育の歴史と思想(4):学校における「学力」と「評価」			
	11　教育の現代的課題(1):学校と「いじめ」「不登校」			
	12　産学連携(授業なし・課題有り)			
	13　教育の現代的課題(2):市民としての子どもと教育			
	14　教育の現代的課題(3):ICTと教育			
	15　授業のまとめ:「教育」とは何か？			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内で適宜紹介します。			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み（30%）＋ワークシート・リアクションペーパー（70%）＝合計（100%）			
担当教員の専門分野等	戦後日本教育史。特に「障害児の普通学校就学運動」における子どもの当事者性についての研究を行っています。			

2022年度　講義要綱

科　目	子ども家庭福祉	必修　2単位 講義	講　師	八木 俊介
授業概要	現代社会における子ども家庭の問題点について理解し専門職として支援について考察できるようになる。 地域組織での子育て支援（保育所など）を考察できるようになる。 そのために①教科書の内容、②子ども家庭福祉に関する学習、③保育士として子どもの福祉を学ぶための学習方法について学習する。			
授業目標	今日の子ども福祉政策に関して理解と展望ができる。問題を抱える子どもの成長に関して、問題意識も持ちながら学習できるようになる。			
到達目標	①卒業後も保育士として子どもの福祉について知識を習得できるようにする。 ②グループ発表などを通して、子どもの問題を自分事としてとらえることができるようになる。			
授業方法	①講義（教科書、PPT）、②資料（動画、参考書）、③グループ発表、ワーク、④振り返りレポートの作成 ・7回目以降の子どもの問題に関しては、グループ発表を予定し順番は前後する。 ・授業の進行状況（グループワークや授業中のレポート作成など）により、授業計画の進行に変更の可能性あり。			
授業計画	1　オリエンテーション（授業概要と授業目的の理解等）			
	2　今日の社会福祉における子ども家庭福祉（少子化など）			
	3　子ども家庭福祉の歴史的変遷、子どもの福祉の考察			
	4　子ども家庭福祉の法・行政組織・財政について			
	5　子ども家庭福祉に関わる機関と施設			
	6　産学連携			
	7　児童虐待をめぐる現状と施策			
	8　社会的養護をめぐる現状と施策。子どもの貧困について。			
	9　ひとり親家庭をめぐる現状と施策・母子保健施策			
	10　心身障がい児をめぐる現状と施策			
	11　非行行動をめぐる現状と施策			
	12　産学連携			
	13　被災児童などのトラウマについて			
	14　遺児・孤児のグリーフケアついて			
	15　まとめ～子ども家庭福祉の今後の展開～			
必須テキスト	児童の福祉を支える　子ども家庭福祉　萌文書林			
参考文献				
成績評価の方法と基準	授業への取り組み・討論への貢献度(40%)、発表・レポート(30%)、講義内容に関する筆記試験（30%）			
担当教員の専門分野等	子どものグリーフケア、児童発達心理、子ども支援のボランティア活動、遺児・孤児の支援、地震などの災害による被災児童の支援。			

2022年度　講義要綱

科　目	社会福祉	必修　2単位 講義	講　師	日高 洋子
授業概要	日本国憲法第25条に定められた「健康で文化的な最低限度の生活」を実現するための様々なしくみ、例えば、生活保護制度、児童手当や児童扶養手当などについて学ぶ。			
授業目標	生活保護制度、児童相談所、民生児童委員などの社会資源について学び、子どもと家族の生活の安定を図るための支援を考える。			
到達目標	子どもの生存権を守るための仕組みについて、基礎知識を得る。 そのために、生活保護法、児童福祉法や児童の権利条約、障害者の権利条約などにについて目的・概要などを学びとる。			
授業方法	講義形式をとりながらも、教師・学生間の質疑応答もバリバリ行う受講生参加型の授業を展開したい。			
授業計画	1　貧困と社会福祉…貧困とは、貧富の差はなぜ生じるのか？ 貧困による子どもの権利を奪うことなく、生き生きと生活出来るような仕組みについて			
	2　生活保護制度（生活保障制度）の目的と4つの原理を学ぶ。			
	3　生活保護制度を活用するときの4原則（ルール）について学ぶ。			
	4　子どもと子どもを育てる家族を対象とする社会手当（児童手当・児童扶養手当）を中心に目的・概要を学ぶ。			
	5　社会手当の続き（特別児童扶養手当・障害児福祉手当）についても目的・概要について 学ぶ。			
	6　現場のプロの講義			
	7　児童虐待について…児童虐待の定義と児童虐待が生じる背景と対応について学ぶ。			
	8　児童福祉行政の第1線機関・児童相談所関し、児童虐待やしょうがい児への対応などの業務について、学ぶ。			
	9　保育所・児童養護施設・母子生活支援施設などの児童福祉施設について、目的・対象・ 概要について学ぶ。			
	10　認定こども園や児童館・児童遊園について学ぶ。 また、里親制度（施設ではないが）についても学ぶ。			
	11　スーパービジョンとコンサルテーションについて学ぶ。			
	12　現場のプロの講義			
	13　しょうがい者の権利条約をもとに、「しょうがい」とは、「合理的配慮」とはどういうことなのか、学び・考えてみる。			
	14　高齢者と認知症について、当事者の心理、家族をはじめ周囲の人びとの関わり方にについて学ぶ。			
	15　15回の講義を通じて学んだ基礎知識の再確認（テスト）を実施。 実施後、質疑応答を交わしながら、正解を導き出す。			
必須テキスト	使用しない			
参考文献	授業中に紹介			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み（50%）＋テスト（50%）＝合計（100%）			
担当教員の専門分野等	ファミリー・ソーシャルワーク専攻。過去に神奈川県大和市で「女性と子どものための総合相談」を担当。現在、東京都小平市「国民健康保険運営協議会」委員として、生存権の保障を医療保険の視点から考察中。			

2022年度　講義要綱

科　目	社会的養護Ⅰ	必修　2単位 講義	講　師	鴇田 陽介
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学ぶ。 児童虐待についての基本的な考え方や現状などを学ぶ。 要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について学ぶ。 子どもの権利擁護の歴史的変遷や現在の内容について学ぶ。			
授業目標	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。			
到達目標	社会的養護の基本的構成や法制度について理解し、社会的養護Ⅱを学ぶための基礎を作る。 子どもの権利養護や歴史的変遷を理解し、保育士の社会的に必要なポジションを理解する。			
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。			
授業計画	1　オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護を学ぶ意味と必要性			
	2　社会的養護の基本的な考え方と歴史			
	3　社会的養護に関わる法制度とその歴史			
	4　社会的養護の様々な形態			
	5　児童虐待の種類と現状			
	6　産学連携			
	7　家庭的養護ー里親とはなにか？ー			
	8　社会的養護施設の現状①ー子どもたちの生活の姿ー			
	9　社会的養護施設の現状②ー支援の原理原則ー			
	10　社会的養護施設の現状③ー愛着障害と発達障害の理解ー			
	11　社会的養護施設の現状④ー地域連携ー			
	12　産学連携			
	13　社会的養護施設の現状⑤ー関係機関との連携ー			
	14　テスト・振り返り			
	15　社会的養護施設の今後の展望			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内で紹介します。			
成績評価の方法と基準	出欠席(30%)＋授業内レポート(30%)＋定期試験(50%)＝合計(100%) 初回授業時に説明します。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。			

2022年度　講義要綱

科　目	保育の心理学	必修　2単位 講義	講　師	前川 圭一郎
授業概要	1. 保育実践に関わる発達心理学の基礎知識を 学ぶ。 2. 発達心理学や学習心理学の知見と保育実践を結びつけながら 学ぶ。 3. 環境と個の相互作用の視点から、個々の発達に			
授業目標	教育・保育に関わる心理学の基礎的知識を習得し、子どもの発達と学習の過程への理解を深めることを目的とする。 生涯発達の過程とともにその発達が人との相互的関わりを通してなされていくことを理解する。また、子どもの学習の過程に関する基礎的知識を身につけ、主体的な学習を支える基礎を身につける。			
到達目標	(1)重要な発達理論を説明することができる。 (2)各発達時期の特徴と課題とを述べることができる。 (3)発達と学習の理論を踏まえて、「環境と個の相互作用」という視点から幼児の発達を考えることができる。			
授業方法	授業は、遠隔の場合、ZOOMによる講義を実施し、グループワーク、課題解決学習等を実施する。 対面の場合、講義・演習形式で行う。具体的には、課題解決学習、ロールプレイ、等を実施する。			
授業計画	1　オリエンテーション:「心理学」・「発達」とは何か？			
	2　身体機能の発達と運動機能の発達			
	3　乳幼児期の特徴と発達Ⅰ			
	4　乳幼児期の特徴と発達Ⅱ			
	5　幼児期の特徴と発達Ⅰ			
	6　産学連携			
	7　幼児期の特徴と発達Ⅱ			
	8　ことばとコミュニケーションの発達			
	9　情動・社会性の発達			
	10　発達の多様性と凸凹について			
	11　「愛着」その誤解と実際			
	12　産学連携			
	13　エビデンスに基づいた保育(ABC分析)			
	14　就学移行支援と学齢期の支援			
	15　テスト			
必須テキスト	毎回の授業時に資料を提供する。また、副読本については、授業において随時紹介する			
参考文献	『保育学用語辞典(保育領域)』秋田(2019)、中央法規			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(20%)＋リアクションペーパー・小テスト(30%)＋定期試験(50%)＝合計(100%) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。 『保育学用語辞典』、『段階別でわかる！発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。			

2022年度　講義要綱

科　目	子どもの理解と援助	必修　1単位 講義	講　師	井上 恵理
授業概要	本科目では、子どもの内面を理解するために大事にしたいポイントや考え方を学習する。社会的養護や障害児者支援の現場等を例に、子どもの健やかな成長のために具体的にどのような支援が存在するか理解する。			
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。			
到達目標	・社会的養護が必要な子ども、障害のある子どもをとりまく社会情勢や課題を説明できる。 ・子どもの視点から子どもが見ている世界を想像し、関わり方を考察できる。			
授業方法	講義と並行して、事例検討、グループワーク、視覚教材の視聴など、演習的学習を通して、保育者として子どもの状態や気持ちを想像しながら関わる力を養う。			
授業計画	1　オリエンテーション「子ども理解」とは何かを知る			
	2　子どもと関わる保育士の心構え			
	3　子どもの生活環境と心理（社会的養護が必要な子ども1）			
	4　子どもの生活環境と心理（社会的養護が必要な子ども2）			
	5　子どもの生活環境と心理（社会的養護が必要な子ども3）			
	6　産学連携			
	7　子どもの生活環境と心理（社会的養護が必要な子ども4）			
	8　子どもの生活環境と心理（社会的養護が必要な子ども5）			
	9　子どもの生活環境と心理（社会的養護が必要な子ども6）			
	10　子どもの生活環境と心理（障害のある子ども1）			
	11　子どもの生活環境と心理（障害のある子ども2）			
	12　産学連携			
	13　子どもの生活環境と心理（障害のある子ども3）			
	14　子どもの生活環境と心理（障害のある子ども4）			
	15　試験			
必須テキスト	『ひと目でわかる　保育者のための児童家庭福祉データブック2022』全国保育士養成協議会（監修）、西郷泰之・宮島清（編著）、中央法規			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
成績評価の方法と基準	出席状況（25%）＋提出物・授業態度（25%）＋試験（50%）＝合計（100%） 授業に出席し、授業中に伝える大事なポイントを記録し、提出物の期限を守りましょう。			
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。			

2022年度　講義要綱

科　目	子どもの保健	必修　2単位 講義	講　師	中村 直美
授業概要	子どもの身体の発育、発達の基本、特徴的な症状や病気について学びその知識を踏まえて 子どもの心身の健康維持、増進、現状と課題についても考えていきます。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標	1, 子どもの身体発育、発達、特徴的な症状や病気の基本を知ることができる。 2, 子ども特有の健康に関する問題、課題を知り健康の維持、増進について関心を持つことができる。			
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義形式 2, 事例ワーク等を通して保育所での保健活動の実際等を紹介			
授業計画	1　オリエンテーション（この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について）			
	2　健康の概念について			
	3　子どもの身体発育の特徴について			
	4　子どもの運動機能の発育、　原始反射について			
	5　新生児の理解と特徴的な病気について			
	6　産学連携			
	7　子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気①（脳）			
	8　子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気②（感覚器）			
	9　子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気③（循環器）			
	10　子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気④（呼吸器）			
	11　子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気⑤（消化器）			
	12　産学連携			
	13　子どもの健康状態の観察とよくみられる症状について			
	14　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について			
	15　試験・まとめ			
必須テキスト	「新基本保育シリーズ⑪　子どもの保健」中央法規			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
成績評価の方法と基準	出席状況、授業への取り組み、課題提出（50%）+試験（50%）＝合計（100%）			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等（保育所、高齢者施設等）における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			

2022年度　講義要綱

科　目	子どもの食と栄養	必修　2単位 講義	講　師	深川 卯子
授業概要	子どもの発育・発達と食生活の関連について栄養素などを通して学ぶ。 食育の基本とその内容・食育のための環境について学ぶ。 アレルギーなどの配慮の必要な子どもの食について学ぶ。			
授業目標	食品や栄養のことを理解し子どもや保護者に対して食育を行うための知識を習得する。 子どもに適切な食事がどのようなものかを献立などにどんな食品の組み合わせが適切かなどを通して理解する。			
到達目標	子どもが食事をするときに適切に対応できる（楽しく食べる、バランスよく食べるなど） 保護者や子どもに食育を行うことができる。			
授業方法	教科書に沿っての講義形式による。復習テストを実施して理解を深める。 手元に教科書をおいて授業を受けてください。			
授業計画	1　発育期の食生活と栄養について、食育の大切さなど			
	2　栄養素について　基本の働きと食事			
	3　栄養素について　炭水化物、脂質、たんぱく質			
	4　栄養素について　ミネラル、ビタミン			
	5　食事摂取基準について　幼児に必要な量は			
	6　産学連携			
	7　栄養素と食品の関係			
	8　乳汁期の食生活			
	9　離乳期の食生活1			
	10　離乳期の食生活2			
	11　幼児期の食生活			
	12　産学連携			
	13　食品群と献立　幼児の一日の食事（献立）例をもとに			
	14　食育について・食物アレルギーについて			
	15　テスト			
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院			
参考文献				
成績評価の方法と基準	出席・提出物・テストによる総合評価 出席（45%）＋提出物（15%）＋テスト（40%）＝合計（100%）			
担当教員の専門分野等	栄養の基礎（人体内における代謝など）。特に脂肪酸についての研究。調理と科学（小麦の特性について）。			

2022年度　講義要綱

科　目	保育の計画と評価	必修　2単位 講義	講　師	中山 利彦
授業概要	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子ども理解に基づく保育の過程(計画・実践・評価・改善)についてその全体構造を捉え、理解する。			
授業目標	1. 保育の全体的な計画及び指導計画を立案作成する意義を理解する。 2. 全体的な計画に基づく長期・短期の指導計画の作成及び評価・改善の仕方について実際の作成事例を参照しながら理解を深める。			
到達目標	1. 毎回の授業において何を学んでいるのか理解し、学んだことを実践に活かせるようにする。 2. 一回一回の授業を経て、最終的に計画と評価の全体像をイメージできるようにする。			
授業方法	1. テキストを用いながら、保育の計画と評価の意義と実践について座学形式で学ぶ。 2. 毎回の授業において授業内容の理解の可否を即日授業内で復習する。			
授業計画	1　オリエンテーション～なぜ保育の計画と評価を学ぶのか？見守る保育の三省、こども園について。			
	2　保育の目標その1　保育とはそもそも何をすることか？保育所保育の目標、子どもの最善の利益他。			
	3　保育の目標その2　保育とはそもそも何をすることか？児童福祉法、子どもの権利条約他。			
	4　保育の方法と環境その1　人的環境、物的環境、空間的環境及び養護と教育の一体性。			
	5　保育の方法と環境その2　保育の方法ー子ども主体、子ども相互の関係づくり他。			
	6　産学連携			
	7　計画を作成するとは？計画性のある保育を実践する事の意義。子どもの発達。			
	8　全体的な計画　指導計画のおおもととなる「全体的な計画」がどういう意味でつくられているか。			
	9　指導計画の作成その1　長期的な指導計画と短期的な指導計画を作成する。3歳未満児は個別指導計画。			
	10　指導計画の作成その2　実際の子どもの姿に基づいて。保育士が一方的に与える計画ではない指導計画。			
	11　指導計画の作成その3　子どもの主体的な活動を促す保育士等による多様な援助を促す指導計画。			
	12　産学連携			
	13　保育の評価その1　自らの保育実践を振り返り、自己評価をすること。			
	14　保育の評価その2　職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための評価。			
	15　保育士に求められること～子どもたちを見守る保育とは～なぜ見守る保育なのか？			
必須テキスト	平成29年告示『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説書(平成29年告示)』 藤森平司著『見守る保育』(学研)			
参考文献	藤森平司著『21世紀型保育のススメ1～5』(世界文化社)、同著『保育の起源』(世界文化社)			
成績評価の方法と基準	出席・受講態度(50%)＋受講後レポート(50%)＝合計(100%)　小テストや定期試験の代わりに受講後、「授業で学んだこと」「質問や感想、他」を、メール等でレポート提出し評価の対象とする。対面授業においては、受講態度を重視する。オンライン授業では指名の際、応答がない場合は欠席とみなす。			
担当教員の専門分野等	20年間、認可保育園、認定こども園、園長・副園長として現場勤務。保育者等の管理者として、子ども権利条約、保育所保育指針に沿った保育現場の実現に携わる。新宿せいがこどもえん副園長、東京都福祉サービス評価推進機構評価者、東京都保健福祉財団保育理論講師、全国私立保育連盟保育子育て総合研究機構国際委員会委員長。			

2022年度　講義要綱

科　目	保育内容総論	必修　1単位 講義	講　師	上平 泰博
授業概要	「保育とは」何かというより「保育する・される」の意味を問いたい。保育内容総論を学ぶにあたって保育所保育指針にある5領域を学ぶ。保育の主体と客体とが常に入れ代わった状態に置かれる現場で、ケア対象のみに終始しない当事者意識の役割を問い直す。保育とは、正解を見つけたり求めたりする場ではない。自然(社会)環境を子どもの身体感覚からとらえ直す必要性に迫られている。地域や家庭が崩れていく状態は放置できない。保育(所)は成立しなくなるからだが、そもそも保育者とは誰のことだったのかも問うていきたい。			
授業目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理			
到達目標	1 保育内容総論という科目の全体的な枠組みと構造を把握しておくことができる 2 とりわけ5領域は明確に説明できるようにしておく 3 保育という概念を狭義にとらえないで、子どもの育ちと育てには自然観と社会観が密接に つながっていることを認識する			
授業方法	保育現場の事例も取り上げながら、保育問題解決の方法をグループ対話によって進めます。授業の参加者の学びの実践力向上を構成していきます。			
授業計画	1　生命の誕生と死の起源について、宇宙の時空間とミクロ分子生物学の視点から考える			
	2　きびしい自然環境下に生きた人類の子育ては分ちあう支えあう学びあうの尊厳ある関係			
	3　ヒトの進化(発育)で培われていった言語、絵文字、表現するの獲得過程は喜楽そのもの			
	4　自然と社会の関係性から編み出されていった人だけの挨拶、顔面柔和、ハグするの意味			
	5　保育(養育)のはじまりと保育所のはじまりは、なぜ大きな時代差となって表れたのか			
	6　産学連携			
	7　心身の健康と情緒の安定は、衣食住の中にみられる喜怒哀楽、痛苦の感性から育まれる			
	8　多文化共生の保育現場で生じた信頼と共感は、攻撃と分断差別にも置かれるという現実			
	9　悩みを抱えながら日常を生きる当事者を前に保育者として今なにができるのかを考える			
	10　子どものもつ利己性と利他性は、バランスよく子ども期に形成されているだろうか			
	11　共遊共作共食といった楽しみ交流によって、心身の健康と感性を維持できるのはなぜか			
	12　産学連携			
	13　子育ての支援スキルに必要な協同性の規範、家庭と地域を重視した目標計画、記録作成			
	14　いつも保育内容を醸し出せるような保育士の専門性と保育という仕事の奥行きと拡がり			
	15　試験			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』			
成績評価の方法と基準	記述式による試験			
担当教員の専門分野等	児童館・学童保育、ファミリーサポート支援等の児童福祉、教育福祉、地域福祉、子どもの社会教育、学校外教育論、協同組合論、			

2022年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅠ	必修　1単位 講義	講　師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、現代の子どもたちの健康と運動に関する教材を活用することで知識を身に付ける。 環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。			
授業目標	1．子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2．保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	子どもの発達をふまえた運動遊びの援助・指導・安全管理を実践的に習得する。 様々な運動を通して、保育現場でも子どもたちに運動遊びの楽しさを教えることができるようになる。			
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 運動遊びの援助・指導・安全管理等、環境構成、計画立案等、様々な形の学習を体験する。 ＊社会情勢や進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	1　ガイダンス・からだほぐし			
	2　リズム遊び・身体表現			
	3　ボール遊び			
	4　幼児期に必要な運動とは①（オンライン）			
	5　幼児期に必要な運動とは②（オンライン）			
	6　産学連携			
	7　運動遊び実践の計画立案			
	8　運動遊び実践①			
	9　運動遊び実践②			
	10　運動遊び実践③			
	11　幼児期に多い怪我と運動時の環境構成について			
	12　産学連携			
	13　伝承遊び			
	14　ボール遊び			
	15　身体表現遊びのまとめ、振り返り			
必須テキスト	特に必要なし			
参考文献	授業中に紹介する			
成績評価の方法と基準	授業に対する関心・意欲・態度(30％)＋運動遊び実践の計画立案・積極性・協調性（40％）＋レポート（30％）＝合計（100％）			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野：幼児体育、身体表現、レクリエーション			

2022年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅠ	必修　1単位 講義	講　師	上田 亜津子、木下 裕子、佐藤 季里、島内 亜津子、鈴木 真智子、豊嶋 祐壹
授業概要	保育の現場において生活と遊びの中で様々に用いられる、わらべ歌、手遊び歌、リトミックソング、季節の歌や生活の歌等、知っておきたいレパートリーを多角的に演習していく。鍵盤楽器や音楽の基礎知識を学び、感じたことや考えたことを自由に表現できる力をつける。			
授業目標	1．子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2．保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	・教科書に沿って鍵盤楽器（ピアノ等）の基礎を学び、保育士に必要な読譜力やリズム感を養う ・様々な子どもの歌を演習し、自信を持って伝えたいことをしっかり表現する。			
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。グループ分けは学生ポータルで各自で確認すること。			
授業計画	1　前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。（Ⓐ Ⓑに分かれて45分で入れ替わる）			
	2　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。			
	3　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ保育士に必要な音楽基礎知識（五線紙は授業内で配布します）			
	4　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ現場で役立つ声の出し方（呼吸法・発声法）			
	5　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。			
	6　産学連携			
	7　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑわらべ歌・手遊び歌の演習			
	8　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ童謡・唱歌等の子どもの歌の演習			
	9　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ簡単な2声のハーモニー（共働作業を楽しむ）			
	10　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑリトミックを含む歌遊びの演習			
	11　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ互いに聞き合い、より良い表現を目指す。			
	12　産学連携			
	13　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ個人レッスンによるアドバイス			
	14　実技試験に向けてのリハーサルと個別指導（Ⓐ Ⓑ共）			
	15　実技試験（発表会）と各自の振り返り			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	随時講師が準備する。			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度（50%）＋実技試験（50%）＝合計100% 実技試験課題曲については11回目または13回目に担当講師と検討し、早めに準備する。			
担当教員の専門分野等	専任：木下裕子　東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			

2022年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ	必修　1単位 講義	講　師	なかむら しんいちろう
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。そして作品製作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」をかなめとし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	1.子どもの絵画の発達や特徴等を理解し説明できる。 2.教材の活用や作成等、造形技術を習得し、子どもの遊びが豊かに展開するよう援助できる。			
授業方法	1.実技　2.座学　（基本毎回課題提出）＊社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更　★オンライン授業予定			
授業計画	1　前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、花等			
	2　こすり出し・フロッタージュ ★NT1NS1			
	3　丸三角四角の組み合わせ			
	4　デカルコマニー・はじき絵・にじみ絵			
	5　＜講義1＞絵画の発達段階について ★NT1NS1			
	6　産学連携			
	7　紙コップ(または紙皿)工作			
	8　お面			
	9　スタンプ			
	10　引っかき絵(クレヨン・クレパス)、色			
	11　＜講義2＞幼児画の特徴 ★NT1NS1			
	12　産学連携			
	13　紙の加工、ハサミ ★NT1NS1			
	14　自然物を用いた制作(雨天変更)			
	15　衣装			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	受講態度・積極性50%＋目標到達度・技術習得度・課題提出数及び内容・技術習得度50%＝計100% 参加・実践形式の授業の為、授業中の意欲的な取り組み、課題作成のプロセス、創意工夫、プレゼンテーション能力、作品説明能力、期日までの提出を評価			
担当教員の専門分野等	イラストレーター、絵本作家			

2022年度　講義要綱

科　目	乳児保育Ⅰ	必修　2単位 講義	講　師	中村 直美
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達の過程を学習します。また、その発達の姿を追いながら援助の方法や保育内容等の基本を学びます。			
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す			
到達目標	1, 乳児保育の意義や目的、歴史、基本知識等を知ることができる。 2, 乳児の成長、発達過程等を知ることができる。			
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 乳児向けの手遊びや絵本、紙芝居の紹介			
授業計画	1　オリエンテーション（この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について）			
	2　乳児保育とは			
	3　乳児保育の歴史について			
	4　乳児保育を支える法律について（児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準）			
	5　乳児保育の基礎知識①　人間の赤ちゃんは無力なの？（ポルトマンの生理的早産と乳児の生得的な特性）			
	6　産学連携			
	7　乳児保育の基礎知識②　愛着形成（ボウルビィの愛着理論）			
	8　保育所での愛着形成について、1～2か月、3～4か月児の発達の特徴			
	9　5～6か月児の発達の特徴、　乳児の睡眠について			
	10　7～8か月児の発達の特徴、SIDSについて			
	11　9～10か月児の発達の特徴　乳児の授乳について			
	12　産学連携			
	13　11～12か月児の発達の特徴　乳児の離乳食について			
	14　1歳～1歳6か月児の発達の特徴　1歳6か月～3歳未満児の発達の特徴			
	15　試験・まとめ			
必須テキスト	「はじめて学ぶ　乳児保育」 志村聡子編著者　同文書院			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
成績評価の方法と基準	出席状況、授業への取り組み、課題提出（50%）+試験（50%）＝合計（100%）			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等（保育所、高齢者施設等）における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			

2022年度　講義要綱

科　目	乳児保育Ⅱ	必修　1単位 講義	講　師	中村 直美
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ3歳未満児の発達過程を踏まえて、実際の保育の場での援助方法、関わり方等を実習室での実習や、対応ワーク等で演習しながら学びます。			
授業目標	1．3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2．養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3．乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4．上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。			
到達目標	1，3歳未満児の発達過程やその特徴を理解できる。 2，上記を踏まえた援助方法や関わり方が理解できる。			
授業方法	1，パワーポイントを使用した講義 2，実習室での実技演習			
授業計画	1　オリエンテーション（この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について）			
	2　身支度、抱っこの仕方、おんぶの仕方について			
	3　乳児の衣服の基礎知識、衣服の着せ方、脱がせ方の基本について			
	4　乳児の排泄の基礎知識、オムツ交換の仕方の基本について			
	5　乳児の衣服の着脱方法、オムツ交換の実際について			
	6　産学連携			
	7　乳児のからだの清潔の基礎知識、沐浴の基本について			
	8　沐浴の実際について			
	9　授乳、冷凍母乳、離乳食の基礎知識について			
	10　授乳、離乳食の実際について			
	11　事例ワーク			
	12　産学連携			
	13　かみつき、ひっかきについて考える①			
	14　かみつき、ひっかきについて考える②			
	15　試験・まとめ			
必須テキスト	「はじめて学ぶ　乳児保育」 志村聡子編著者　同文書院			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
成績評価の方法と基準	出席状況、授業への取り組み、課題提出（50％）+試験（50％）＝合計（100％）			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等（保育所、高齢者施設等）における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			

2022年度　講義要綱

科　目	子どもの健康と安全	必修　1単位 講義	講　師	中村 直美
授業概要	保育における健康、安全の管理に関する知識を知り、具体的な方法を体験し、自分自身や仲間と考えてみることで実践力を養っていきます。			
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。			
到達目標	保育における健康、安全の基礎知識を知り、グループワークや事例検討を通して実践力を身につけることができる。			
授業方法	パワーポイントを使用した講義で基本を学び、グループワークや演習で体験し、学習を深めていく。			
授業計画	1　オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について)			
	2　健康観察(身体測定、健康診断)と年間保健計画について			
	3　保育環境の整備、衛生管理について			
	4　子どもの事故の特徴について			
	5　保育所での事故防止と安全管理について			
	6　産学連携			
	7　災害への備えと危機管理について			
	8　体調不良や傷害の対応について			
	9　救急時の対応について			
	10　子どもと感染症①(基礎知識)			
	11　子どもと感染症②(標準予防策、保育所での集団発生への対応)			
	12　産学連携			
	13　子どもと感染症③(嘔吐処理の方法)			
	14　個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー)について			
	15　試験・まとめ			
必須テキスト	「子どもの健康と安全」中央法規			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
成績評価の方法と基準	出席状況、授業への取り組み、課題提出(50%)+試験(50%)＝合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			

2022年度　講義要綱

科　目	社会的養護Ⅱ	必修　1単位 講義	講　師	鴇田 陽介
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学ぶ。 支援の基盤となる支援計画の作成方法を学び、実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。			
授業目標	社会的養護における支援計画及び具体的な支援方法について理解する。 自身の性格や傾向を知り、専門職としての意識を高める。			
到達目標	社会的養護の具体的な方法を理解した上で、施設実習に挑む心構えを作る。 保育士の社会的意義を理解して、どのような役割を持っているかを理解し、就職後の心構えを作る。			
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れ、主体的な参加型の授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。			
授業計画	1　オリエンテーション（授業方法や成績評価）／社会的養護Ⅰの復習			
	2　社会的養護施設の子どもたちへの理解			
	3　子どもの権利			
	4　生活支援と治療的支援			
	5　自立支援とアフターケア			
	6　産学連携			
	7　子どもと向き合うということ			
	8　社会的養護を必要とする親子への理解			
	9　愛着障害児への理解と支援方法			
	10　情報収集とアセスメント			
	11　自立支援計画の作成			
	12　産学連携			
	13　ケーススタディ			
	14　テスト・振り返り			
	15　社会的養護の教科の振り返りと今後の展望			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内において紹介。			
成績評価の方法と基準	出欠席（30%）＋授業内レポート（30%）＋定期テスト（40%）＝合計（100%） 初回授業時に説明します。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。児童養護施設・発達障害児支援施設での経験あり。			

2022年度　講義要綱

科　目	保育実習指導Ⅰa	必修　1単位 講義	講　師	松森 照幸
授業概要	・貴重な学習経験である保育所実習を有意義なものにするために必要な事項を学ぶ。 ・実習日誌の記載方法を体得し、実習に向けての準備や心構えを養っていく。			
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする			
到達目標	・実習に挑む目的意識、実習生としての常識を身に付けることができる。 ・学生自身が、立案、作成した指導案や製作物の発表を行い、実習での実践的な実技が身につくことができる ・教科書を用いり、子どもや保育者に対する考察することができる。 ・考察を踏まえた上で、実習日誌の書き方を理解することができる			
授業方法	・授業を通して実習を想定し、実習生として必要な常識、スキル、柔軟性を学び、身に付ける。 ・実習で必要な、態度（報告、連絡、相談また挨拶など）の大切さを知り、習慣として身につく。			
授業計画	1　保育実習の概要			
	2　実習の心得　個人票作成			
	3　保育所の1日の流れと保育内容の理解　実習目標を立てる			
	4　実習日誌を書く意義と記入の仕方			
	5　実習日誌:エピソード記録の書き方について			
	6　産学連携			
	7　部分実習指導計画について			
	8　実習に伴う書類の作成　事務手続きの確認　実習課題			
	9　オリエンテーションについて　実習日誌の書き方			
	10　グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成			
	11　グループワークによる手遊び・絵本の発表・ペープサート発表			
	12　産学連携			
	13　実習日誌:ドキュメンテーション記録について			
	14　まとめ振り返り			
	15　試験　最終確認			
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～」（萌文書林）「保育所保育指針」（チャイルド社）			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	出席状況25％、発表（読み聞かせ、ペープサート）40％、テスト15％、提出物20％			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			

2022年度　講義要綱

科　目	保育実習指導Ｉｂ	必修　1単位 講義	講　師	井上 恵理
授業概要	貴重な学習経験である施設実習を有意義なものにするために、必要な事項を学び、施設実習に向けた準備をする。 あわせて実習日誌の記載方法を体得する。			
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。			
到達目標	・(児童)福祉施設の入所児、利用者、職員に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。 ・実習に臨む目的意識、問題意識を持てる。			
授業方法	・講義により、(児童)福祉施設についての知的理解を深める。 ・実際の現場に立ち、施設の実践に触れる中で、体験的に学ぶ。			
授業計画	1　施設実習の意義と目的			
	2　施設実習先の種別や実習の実際、必要な準備について			
	3　乳児院について			
	4　児童養護施設について			
	5　母子生活支援施設についって			
	6　産学連携			
	7　児童発達支援センター(療育)について			
	8　福祉型障害児(者)施設について			
	9　医療型障害児(者)施設について			
	10　実習日誌の理解と演習			
	11　実習目標を立てる			
	12　産学連携			
	13　実習目標を立てる			
	14　まとめと振り返り			
	15　まとめと振り返り			
必須テキスト	『ひと目でわかる　保育者のための児童家庭福祉データブック2022』西郷泰之・宮島清編著、中央法規			
参考文献	適宜、授業内で紹介			
成績評価の方法と基準	出席点(30%)＋平常点(30%)＋レポート等提出物(40%)＝合計(100%) 実習と同じルールを適用するため、基本的に遅刻・欠席は認めない。			
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。			

2022年度　講義要綱

科　目	子どもと保育	選択必修　4単位 講義	講　師	松森 照幸
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。 実習をイメージしながら、実習に必要な事柄を能動的に習得することができる。			
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	1　オリエンテーション			
	2　保育所について			
	3　保育士のプロ視点を持つ①			
	4　保育現場職員講演			
	5　保育士のプロ視点を持つ②			
	6　産学連携現場活動			
	7　保育実習までの手順			
	8　保育士の仕事を知る			
	9　実習Ⅱ自己開拓について			
	10　日誌の書き方①基本と環境図			
	11　日誌の書き方②時系列日誌の基本①			
	12　産学連携現場活動			
	13　日誌の書き方③自分の見学した日誌書いてみよう			
	14　日誌の書き方④時系列日誌を最後まで完成しよう			
	15　日誌の書き方⑤日誌をプロの視点で添削			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
必須テキスト	なし			
参考文献	なし			
成績評価の方法と基準	平常点(60%)＋課題(40%)＋提出物(20%)			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			

2023年度　講義要綱

科　目	合唱と合奏	選択必修　2単位 講義	講　師	
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場でこどもたちと楽しんでいくか、自ら考えながら、より良い指導法のテクニックを培っていく。コードネームの基礎をマスターする。			
授業目標	1．子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2．保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	・個人レッスンでは保育実習Ⅱに向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲仕上げる。 ・季節や生活・行事等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に着ける。			
授業方法	1年次と同じく、クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、Ⓐピアノ等の個人レッスンとⒷ合唱等のグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	1　前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。（ⒶⒷに分かれて45分で入れ替わる）			
	2　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ合唱等のグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。			
	3　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ1年次にマスターした子どもの歌のレパートリーの確認。			
	4　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑコード伴奏等の基礎知識（五線紙は配布します。）			
	5　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ現場で役立つ声の出し方（呼吸法と発声法）			
	6　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ童謡・唱歌等の子どもの歌教材研究			
	7　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ3~4名のグループによる指導法研究と発表			
	8　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ指揮法基礎			
	9　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ2声・3声のハーモニー（共働作業を楽しむ）			
	10　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑリトミックを含む歌遊びの指導法研究			
	11　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑリズム楽器を楽しむ			
	12　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ弾き歌いの指導法研究			
	13　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ個人レッスンによるアドバイス			
	14　実技試験に向けてのリハーサルと個別指導　（ⒶⒷ共）			
	15　実技試験（発表会）と各自の振り返り			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度（50%）＋実技試験（50%）＝合計100% 実技試験課題については1か月前には担当講師と個別に検討を始め、ピアノ曲、弾き歌い各1曲（または弾き歌い2曲）を準備すること。			
担当教員の専門分野等	専任：木下裕子　東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			

2022年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ	選択必修　1単位 講義	講　師	上田 亜津子、金渕 洋子、木下 裕子
授業概要	保育の現場において生活と遊びの中で様々に用いられる、わらべ歌、手遊び歌、リトミックソング、季節の歌や生活の歌等、知っておきたいレパートリーを多角的に演習していく。また、コードネームによる簡易伴奏の基礎を学び、現場での指導に活用できる力を養う。			
授業目標	1．子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2．保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	・個人レッスンではハ長調の主要三和音を使った弾き歌いのレパートリーを2曲以上作る。 ・様々な子どもの歌の音程,リズム,ねらい等を学び、伝えたいことをしっかり表現する。			
授業方法	前期と同様にクラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、Ⓐピアノ個人レッスンとⒷ歌遊びのグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	1　前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(ⒶⒷに分かれて45分で入れ替わる)Ⓐの個人レッスンでは次週の各人の課題を担当講師と打ち合わせ、次週に向けてのの個人練習を続けましょう。			
	2　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。			
	3　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ保育士の音楽基礎知識（五線紙は授業内で配布します）			
	4　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ現場で役立つ声の出し方＝呼吸法・発声法の演習。			
	5　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ手遊び歌やわらべ歌の演習			
	6　産学連携			
	7　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ弾き歌いによる指導法について			
	8　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ童謡・唱歌等の子どもの歌の演習			
	9　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ簡単な2声のハーモニー（共働作業を楽しむ）			
	10　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑリトミックを含む歌遊びの演習			
	11　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ互いに聞き合い、より良い表現を目指す。			
	12　産学連携			
	13　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ個人レッスンによるアドバイス			
	14　実技試験に向けてのリハーサルと個別指導（ⒶⒷ共）			
	15　実技試験（発表会）と各自の振り返り			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度（50%）＋実技試験（50%）＝合計100% 実技試験課題については1か月前には担当講師と個別に検討を始めピアノ曲、弾き歌い各1曲を準備する。			
担当教員の専門分野等	専任：木下裕子　東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			

2023年度　講義要綱

科　目	保育実習Ⅲ	選択必修　2単位 外部実習	講　師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する			
到達目標	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能、利用者ニーズと支援の実際を理解する 2. 個人の支援計画を理解し、多様な専門職との協働、業務内容、職業倫理を理解する 3. 現場における学びを記録、考察し、自己課題を明確化できる			
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1　①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
必須テキスト				
参考文献				
成績評価の方法と基準	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価			
担当教員の専門分野等				